―いい音、浦安（ここ）から―
J:COM浦安音楽ホール

ストラディヴァリウス・デュオ・コンサート

～1725年製「ウィルヘルミ」と1716年製「ブース」の響き～

大谷康子（ヴァイオリン）　吉田南（ヴァイオリン）　福間洸太朗（ピアノ）

2022.1/24（月）19:00開演

■主催：浦安市　日本音楽財団
■共催：J：COM浦安音楽ホール
■助成：日本財団

浦安市

日本音楽財団
NIPPON MUSIC FOUNDATION

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

Program　プログラム

J.M.ルクレール
2つのヴァイオリンのためのソナタ ホ短調 作品3-5

Jean-Marie Leclair：Sonata for 2 Violins in E Minor, Op. 3, No. 5

I. Allegro ma poco
II. Gavotte
III. Presto

C.フランク
ヴァイオリン・ソナタ イ長調（吉田南）

César Franck ：Violin Sonata in A Major

I. Allegretto ben moderato
II. Allegro
III. Recitativo - Fantasia: Ben moderato - molto lento
IV. Allegretto poco mosso

＊＊＊

J.ブラームス
ヴァイオリン・ソナタ第3番 ニ短調 作品108（大谷康子）

Johannes Brahms：Violin Sonata No. 3 in D Minor, Op. 108

I. Allegro
II. Adagio
III. Un poco presto e con sentimento
IV. Presto agitato

D.ショスタコーヴィチ
2つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品

Dmitry Shostakovich：5 Pieces for 2 Violins and Piano

「Prelude」「Gavotte」「Elegy」「Waltz」「Polka」

【出演者変更のお知らせ】
当初、日本音楽財団の楽器被貸与者であるステラ・チェンが出演予定でしたが、新型コロナウイルス感染症に関わる入国制限により来日困難となりましたため、同じく楽器被貸与者である大谷康子が出演することになりました。

曲目・曲順は変更になる場合があります。

Program notes　曲目解説

解説：西田紘子

J.M.ルクレール：2つのヴァイオリンのためのソナタ ホ短調 作品3-5

ジャン＝マリー・ルクレール（1697～1764）は、バロック時代の作曲家でヴァイオリニスト。フランス・リヨンに生まれ、イタリアに赴いてジョヴァンニ・バッティスタ・ソミスにヴァイオリンを学んだあと、パリを中心に活動した。師ソミスは抒情的なイタリア様式と舞踊的なフランス様式を融合させた演奏で知られ、ルクレールはそれをさらに発展させた。ライバルとの争いや変死を遂げた最期など、波乱含みの人生を送っている。

ヴァイオリンと鍵盤のためのソナタは多数残されているが、2つのヴァイオリンのための作品は少ない。本作では、両ヴァイオリンのメロディーが絡み合ったり各自が重音奏法を活用したりして華やかさを生み出している。

このような技法を駆使して創られた**第1楽章**に対して、「優美なガヴォット」と記された**第2楽章**ではメロディーと伴奏の分担が明瞭だ。**第3楽章**は16分音符を連ねてほぼ休みなく展開する。

C.フランク：ヴァイオリン・ソナタ イ長調

ベルギー出身でフランスに帰化したセザール・フランク（1822～1890）は、教育者やオルガニストとしても名高い。今日知られる彼の作品の多くは、50代半ばを過ぎてからのものだ。

唯一の「ヴァイオリン・ソナタ」も、63歳の時。同郷の名ヴァイオリニスト、ウジェーヌ・イザイの結婚祝いとして創られた。イザイ夫婦が初演を行って以降、チェロ用などの編曲版を通しても親しまれている。

第1楽章はピアノの緊張感を高めるような和音を使いながらも、気だるさを秘めて始まる。冒頭でヴァイオリンが奏でる主題はいくつかのモティーフから構成され、これらが楽章を超えて現れる。循環形式と呼ばれる、フランクお得意の作曲法だ。**第2楽章**は情熱的に揺れる部分と、展開部（第90小節～）の問いかけるようなフレーズがじつに対比的。レチタティーヴォ・ファンタジアと題された**第3楽章**の幻想的な語りに続き、**終楽章**では輪唱のようなカノン技法を活用した主題の合間に、これまでに登場したモティーフが挟まれる。

J.ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第3番 ニ短調 作品108

ヨハネス・ブラームス（1833〜1897）の「ヴァイオリン・ソナタ」は3作ある。「第1番」は46歳で完成されたから、自身が名手であったピアノ作品に比べると、遅咲きのジャンルである。

「第3番」は1886年から88年にかけて、スイス西部のトゥーン湖畔で作られた。同時期に「ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲」を発表し、不仲となっていた友人の名ヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒムとも和解。この協奏曲を最後の管弦楽作品として、その後ブラームスは、室内楽やピアノ曲、歌曲に集中する。内省的な傾向が増していく頃だ。

第1楽章はピアノのシンコペーションが耳を引く。拍節をぼかすようなリズムは後期ブラームスに特徴的で、**第2楽章**でも2小節を1小節に見立て3拍に分けるヘミオラという複合的なリズムが聴かれる。**第3楽章**では冒頭部分が再現される時に奏法が変化するので注目。**終楽章**は「アジタート（“激しく”とか“急きこむように”といった意味）」と指示されているとおり、緊張感のある和音で始まる。

D.ショスタコーヴィチ：2つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品

ドミートリ・ショスタコーヴィチ（1906〜1975）は、スターリン独裁体制下のソ連を生き、「ロシア民族・民衆のために音楽を書くべし」という社会主義リアリズムの政策に翻弄された作曲家だ。ときに政府から批判を受け、上演禁止の憂き目にも遭ったが、ソ連にとどまって創作を続けた。国策として制作された映画にも関わり、多様なジャンルで作品を残している。

そんなショスタコーヴィチの作品を掘り起こし、親しみやすい形で普及させようと選曲・編曲を行ったのが、友人の作曲家レヴォン・アトヴミヤン（1901〜1973）である。本作で編まれたのは、映画音楽「馬あぶ」、劇音楽「人間喜劇」、バレエ音楽「明るい小川」といった1930年代と50年代の作品に登場する曲（ただしワルツの原曲は定かではない）。

ヴァイオリンが一定の音程で並走する「**前奏曲**」、フランス舞曲に由来する「**ガヴォット**」、同じ3拍子だが対照的な性格の「**エレジー**（哀歌）」と「**ワルツ**」、スラヴの舞曲にルーツをもつ「**ポルカ**」からなる。

Profile プロフィール

©Masashige Ogata

大谷康子（ヴァイオリン）
Yasuko Ohtani, violin

2021年にデビュー46周年を迎え、これまでにソロ活動はもとより、モスクワ・フィル、スロヴァキアフィル等、国内外の著名なオーケストラと多数共演。1公演で4曲のヴァイオリンコンチェルトを1日2公演行うという前代未聞の快挙を達成し話題となった。キエフ国立フィルとは2017年以降毎年招聘され、2022年9月にも共演を予定。また、2019年5月に実力派ピアニスト、イタマール・ゴランと全国ツアー(12都市)を開催し、好評を博す。

CDはベストセラー「椿姫ファンタジー」(SONY)や、ベルリンでの録音による「R.シュトラウス/ベートーヴェン・ソナタ№5(ピアノ: イタマール・ゴラン)」(SONY)等、多数リリース。著書に「ヴァイオリニスト 今日も走る!」(KADOKAWA)がある。BSテレ東(毎週土曜朝8時)「おんがく交差点」では司会・演奏を務める。

文化庁「芸術祭大賞」受賞。東京音楽大学教授。東京藝術大学講師。(公財)練馬区文化振興協会理事長。川崎市市民文化大使。高知県観光特使。(公財)日本交響楽振興財団理事。(公社)日本演奏連盟理事。

使用楽器はピエトロ・グァルネリ(1708年製)と、ストラディヴァリウス「ウィルヘルミ」(1725年製／日本音楽財団貸与)。

オフィシャル・ホームページ： https://www.yasukoohtani.com

【公式YouTube】「大谷康子のやっこチャンネル」演奏動画続々公開中！

ストラディヴァリウス　1725年製ヴァイオリン
「ウィルヘルミ」(日本音楽財団所有)

1866年以降、約30年間この楽器を所有していたドイツの著名なヴァイオリン奏者、アウグスト・ウィルヘルミ（1845〜1908）に因んでこの名前が付けられた。ウィルヘルミの所有していた数多くのヴァイオリンのうち最も愛用されていた楽器だったが、「演奏者としてベストなうちに引退したい」との理由で、50代の若さで楽器を手放したという。

©武藤章

吉田 南（ヴァイオリン）
Minami Yoshida, violin

1998年奈良県生まれ。5歳よりヴァイオリンを始め、桐朋女子高等学校音楽科卒業後は桐朋学園大学音楽学部ソリストディプロマコースを学費等全額免除特待生として修了した。現在、学長奨学金を得てニューイングランド音楽院、特別特待奨学生として東京音楽大学アーティストディプロマコースに在籍し、ミリアム・フリード、原田幸一郎、竹澤恭子の各氏に師事している。
これまでに、2014年日本音楽コンクール1位及び5つの特別賞受賞、2015年シベリウス国際ヴァイオリンコンクール入賞、2016年モントリオール国際音楽コンクール3位など数々のコンクールで入賞を果たしている。また、アリオン桐朋音楽賞、岩谷時子Foundation for Youth賞、米国のサロン・デ・ヴィルトゥオージからキャリア形成のための奨学賞を受賞している。現在、江副記念リクルート財団、タン・ファミリー教育財団より活動支援を受けている。12歳で大阪フィルハーモニー交響楽団との共演を皮切りに、国内のオーケストラ以外にも、ヘルシンキフィルハーモニー管弦楽団、フィンランド放送交響楽団、モントリオール交響楽団など多数の著名なオーケストラと共演している。また、ボストン、シカゴ、ニューヨーク、テキサスの他、カナダ、ドイツ、オランダ、ベルギー、フィンランド、シンガポール、韓国、台湾など様々な国や地域で演奏を行っている。使用楽器は日本音楽財団保有の1715年製ヴァイオリン「ブース」。
アスペン・ホームページ：https://www.aspen.jp/artist

ストラディヴァリウス　1716年製ヴァイオリン
「ブース」（日本音楽財団所有）
1855年頃にイギリスのブース夫人が所有していたため、現在の名が付けられている。彼女はヴァイオリンの才能を発揮した2人の息子たちのためにストラディヴァリウスのクァルテットを形成しようと試み、この楽器を購入した。1931年にアメリカの名高いヴァイオリン奏者ミッシャ・ミシャコフ（1896～1981）の手にわたり、1961年にはニューヨークのヘンリー・ホッティンガー・コレクションの一部となった。音色の美しさ、音の力強さにおいて知名度が高く、保存状態も優れている。

©Marc Bouhiron

福間洸太朗（ピアノ）
Kotaro Fukuma, piano

パリ国立高等音楽院、ベルリン芸術大学、コモ湖国際ピアノアカデミーにて学ぶ。20歳でクリーヴランド国際コンクール優勝（日本人初）およびショパン賞受賞。これまでにカーネギーホール、リンカーンセンター、ウィグモアホール、ベルリン・コンツェルトハウス、サルガヴォー、サントリーホールなどでリサイタルを開催する他、クリーヴランド管、モスクワ・フィル、イスラエル・フィル、フィンランド放送響、ドレスデン・フィル、トーンキュンストラー管、NHK交響楽団など国内外の著名オーケストラとの共演も多数。2016年７月にはネルソン・フレイレの代役として急遽、トゥールーズ･キャピトル国立管弦楽団定期演奏会において、トゥガン・ソヒエフの指揮でブラームスのピアノ協奏曲第2番を演奏し喝采を浴びた。またフィギュア・スケートのステファン・ランビエルなどの一流スケーターとのコラボレーションや、パリにてパリ・オペラ座バレエ団のエトワール、マチュー・ガニオとも共演するなど幅広い活躍を展開。CDは「バッハ・ピアノ・トランスクリプションズ」(ナクソスジャパン)などこれまでに17枚をリリース。2020年7月より、珍しいピアノ作品を取り上げる演奏会シリーズ「レア・ピアノミュージック」もプロデュースしている。テレビ朝日系「徹子の部屋」や「題名のない音楽会」、NHK テレビ「クラシック音楽館」や「クラシック倶楽部」などにも出演。第39回日本ショパン協会賞受賞。現在ベルリン在住。
オフィシャル・サイト：http://www.kotarofukuma.com

本コンサートチケット売上の全ては、浦安市文化芸術振興基金に積み立てられ、市民の文化芸術活動の普及振興に使われます。